

立山初滑り山スキー報告

【山城】北アルプス・立山

【日程】2017 年 11 月 25 日～26 日

【メンバー】CL 菊池・鶴田・滝本・吉川・薄井・会員外 6 名（四国からの岡田さん：SL）

【行程】

25 日：室堂；強風・曇り・ホワイトアウト状態、夜間は満天の星

扇沢駅 8：30－室堂駅－11：00 室堂山荘 11：30－室堂山方向にハイクアップ標高差約 50m－滑走－室堂山荘（泊）

26 日：室堂；朝は高曇り・強風→暴風・地吹雪・ホワイトアウト

室堂山荘 7：30－滑走－浄土川－山崎カール方向にハイクアップ（標高差約 200 m）－滑走－ボトム（浄土川）－11：10 室堂山荘－室堂駅－薬師の湯－帰葉



- ・過去 2 年間、この時期の雪不足により中止となった立山初滑り、今期は早々と降雪があり積雪はたっぷりで前日の積雪は 230 cm、当日の朝まではさらに 1m の降雪があり 335 cm であった。天気図では冬型が緩み、高気圧が本州に張り出すが強風予想、「てんきとくらす」の山岳予想では C ランクのままであったが、何とか晴れ間も期待できる

のではと考え入山することとした。扇沢に 7:10 頃到着したが、有料駐車場の除雪を行っており 30 分以上待たされた。何とか慌ただしく支度を済ませ、予定通り 8:30 の始発にぎりぎり間に合って、トロリーバスに乗り込んだ。

- ・室堂駅に到着する頃には天気が好転することを期待しながら、ケーブルカー・ロープウェイ・トロリーバスと乗り継いで 10 時半過ぎ、支度を整え室堂駅の外に出てみると強風・視界不良のホワイトアウト状態である。

ちば山メンバー、四国・新潟・高田・宇都宮から集まった総勢 13 名（立山初滑り初体験 6 名）の簡単な自己紹介を済ませ、ロープで結ばれた細かい間隔のポールを辿って室堂山荘に到着した。



- ・例年のように、受付を済ませ部屋で荷物を整理、行動食を採り 11：30 頃、とにかく外に出たが、やはりほぼホワイトアウト状態。室堂山の方角に少しハイクアップ（標高差 50m 程か）、そこから地図と GPS を頼りに山荘に向かって滑走【？】というか、恐る恐る下ってみるが視界 15m 以下、たちまち酔っ払い状態となり、停止する地面が地震のようにうごめいているような、気分不良状態に閉口した。GPS と睨めっこしながら山荘に向かうが、かなり難儀して漸く山荘に帰還できた。

- ・寒気が強く、ホワイト状態が改善する見込みがないため、早々と宴会モードに突入、とにかく時間が余りすぎです。全国から参集した 13 名が其々、ゆっくり自己紹介、酔いも回ってきて山スキー談義・情報交換に大いに盛り上がった。3 時頃にはやや視界が回復し待ち切れず滑りに行ったパーティもあるが、高齢者の多いわがパーティは翌日に期待することにした。夜間は風も弱まり満天の星、2 日目が期待された。

- ・2 日目の朝 5 時頃、戸外に出てみると星が見える。何とか 2 日目は大丈夫かと思いきや、

6 時前には星が見えなくなりどうやら天気は下り坂であるようだ。早々とスタートしていくグループを見送り、6 時半からの朝食である。テレビの天気予報では昼頃から悪化予想、早めの行動開始で勝負は午前中であるとメンバーに指示して 7：30 には支度を済ませスタートラインに立った。風が夜中より強くなっており時々突風気味である



が、何とか雄山・浄土山の全貌ははっきり見える。一の越にご来光が現れた。天気は早々と悪化傾向であるが、何とか雄山をバックに記念撮影できた。



- ・初滑走は室堂山荘裏から玉殿岩屋の横を通過し浄土川までの標高差 100m、緩斜面でス

タートするが雪面の凹凸・緩急が見えにくい。先行のボーダーグループに続いて、左に方向転換し急斜面をボトムまで滑走する。風が弱いエリアであり雪質はまあまあ、多量の新雪であるが、結合は良く雪崩の心配はないようであり、やや重のデープパウダーを慎重に滑走した。ボトムでは先行したパーティがシールを貼っている。とりあえず今シーズン初のパウダーランをなんとか楽しむことができ一同ホットして山崎カ



ールに向かうべくシールを貼った。

- ・先行パーティのトレースを辿り山崎カールに向かった。標高差 200m 近くを登り上げたが、徐々に急斜面になり、高齢者の多いわがパーティはやや苦勞した。山崎カールの台地に近づき最後の急斜面を登り始めたが、上部にガスが掛かってきており、急遽ハイクアップ終了と宣言した。急いで行動食を採りながら滑走準備にかかった。先行パーティも、後続パーティもこの天気悪化では上部に進むことを諦め、総勢 30 名程が同じところからの滑走となった。



25〜30度の急斜面、パック気味のやや重パウダーの広い斜面、一面が真っ白で、まだガスが掛かってないものの凹凸が分からず厄介な滑走が待っている。若者グループは早々と滑走準備が整い次から次へとパウダーに飛び込んでいった。トップのガイド役はさすがにテクニシャン、視界不良の中、果敢にハイスピードターンを決めていた。後続者もそれに続くが、数ターン後に凹凸が分からず転倒する者が多かった。われわれは高齢者・滑走技術もまちまち、「しっかり板の上に重心を載せ、バランスを崩さないように頑張れ」と励まし、数ターン毎に停止しながら、デープパウダーランを楽しんだ。標高差150m余りの斜面を3〜4回ほど停止して浄土川のボトムまで到達、何とか今回の初滑りの面目が保てる初パウダーランとなった。



・シールを貼り直して室堂山荘に戻ったが天気は急速に悪化、シール面に雪がついて効かなくなったメンバーが一人出たが、持参した結束バンドでOK、このようなこともあると、ワカンも二組持参していた。天気の回復は全く望めず、荷物をまとめて室堂駅に向かったが、暴風・ホワイトアウト

ト・地吹雪状態となり、遭難寸前の状態で室堂駅に辿りついた。

- ・7～8年前、室堂山荘集合のグループの一名が悪天。ホワイトアウトの中、室堂駅から室堂山荘に向かったが辿り着かず、近接する旧室堂山荘の軒下で雪に半身埋まって凍死していた事例がある。この遭難事例を注目し、今回も入山前からこのようなことにならないようにメンバーに注意を喚起していた。わが会では15年ほど続くこの時期の立山初滑りであるが、悪天予想では入山中止や、日程を短縮して初滑りを楽しんでおり、概ね一日は好天に恵まれ山岳山スキーの素晴らしさをメンバー一同堪能できていた。今回も天気図では強風予想ではあるが、何とか晴れ間も期待できるのではと良い方に考え日程を短縮入山してみたが、今年は寒気の影響・早い本格的冬期の気象状況により、今までにないほどの冬の立山の厳しさを実感させられた。好天では天国、今年は地獄寸前、高い授業料を払っての学習と考え、今後の山スキーライフの役に立てたい。

- ・悪天にもかかわらず、帰りの大観峰・黒部ダムでは東南アジアからの観光客が多く、近年の外国人観光ブームが伺われた。

